

# 矢野勝俊研究室による蔵王の樹氷観測

山形県教育庁 安部博之

矢野勝俊先生が2000年4月に亡くなられてから20年近い年月がたってしまいました。本稿では矢

野研究室による蔵王の樹氷観測について紹介したいと思います。



矢野先生 1994年2月23日



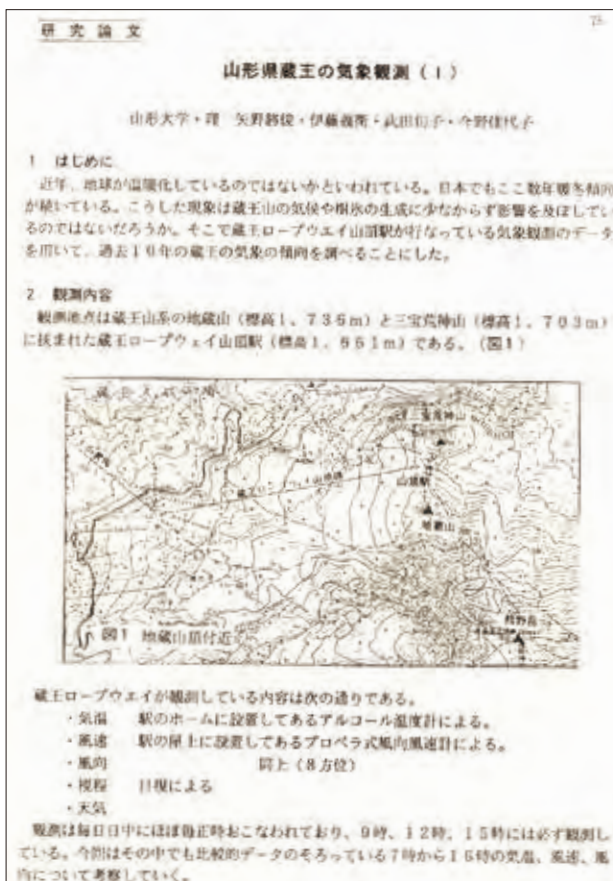
矢野先生 1999年2月18日（蔵王山頂の雪氷研究所にて）

山形大学理学部物理学科の矢野勝俊教授の研究室では毎年、冬になると樹氷や積雪の観測を行っています。蔵王ロープウェイ山頂駅の改修工事でなくなってしまいましたが、蔵王ロープウェイ山頂駅の地下の一角に山形大学理学部雪氷研究所を作られ、そこを拠点に昼夜観測を行っています。

矢野先生のご研究の中で大きな成果の一つは、温暖化による樹氷の衰退を見つげられたことです。最初の論文は1994年、に（社）日本雪氷学会東北支部の「東北の雪と生活 第9号」に掲載された「山形県蔵王の気象観測（1）」です。



東北の雪と生活 第9号（1994年）の表紙



山形県蔵王の気象観測（1）

翌年の1995年には、講談社のブルーボックス「検証・ヒトが招いた地球の危機（山形大学地球環境研究会編）」に「蔵王の樹氷が温暖化を語る」を執筆されています。この中で、矢野先生は、蔵王山頂では1983年から1993年までの10年間で1.1-1.5℃気温が上昇していること、樹氷の下限高

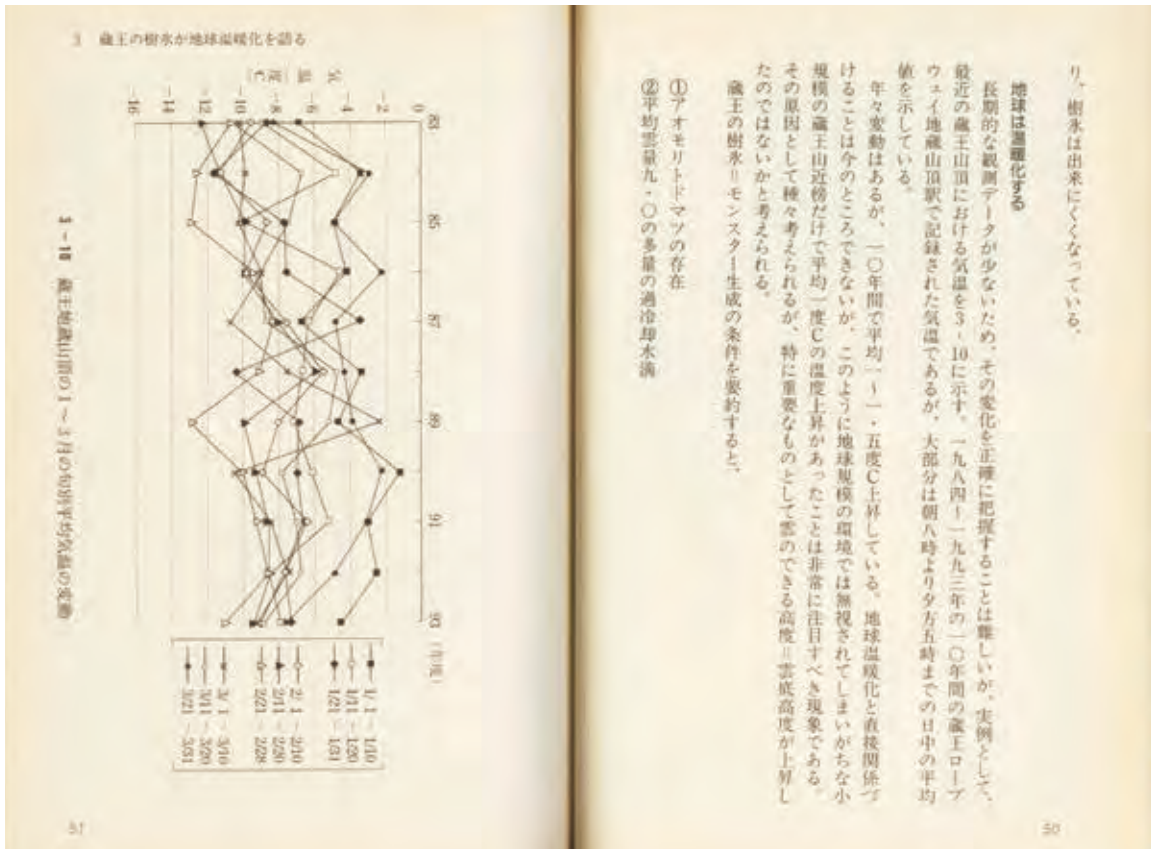
度が1980年代はじめは1500mであったものが1990年代はじめには1550mにまで50m上昇したことを示されています。そして、このまま気温の上昇が続いていくと、樹氷は消えてしまうかもしれないと言及されていました。



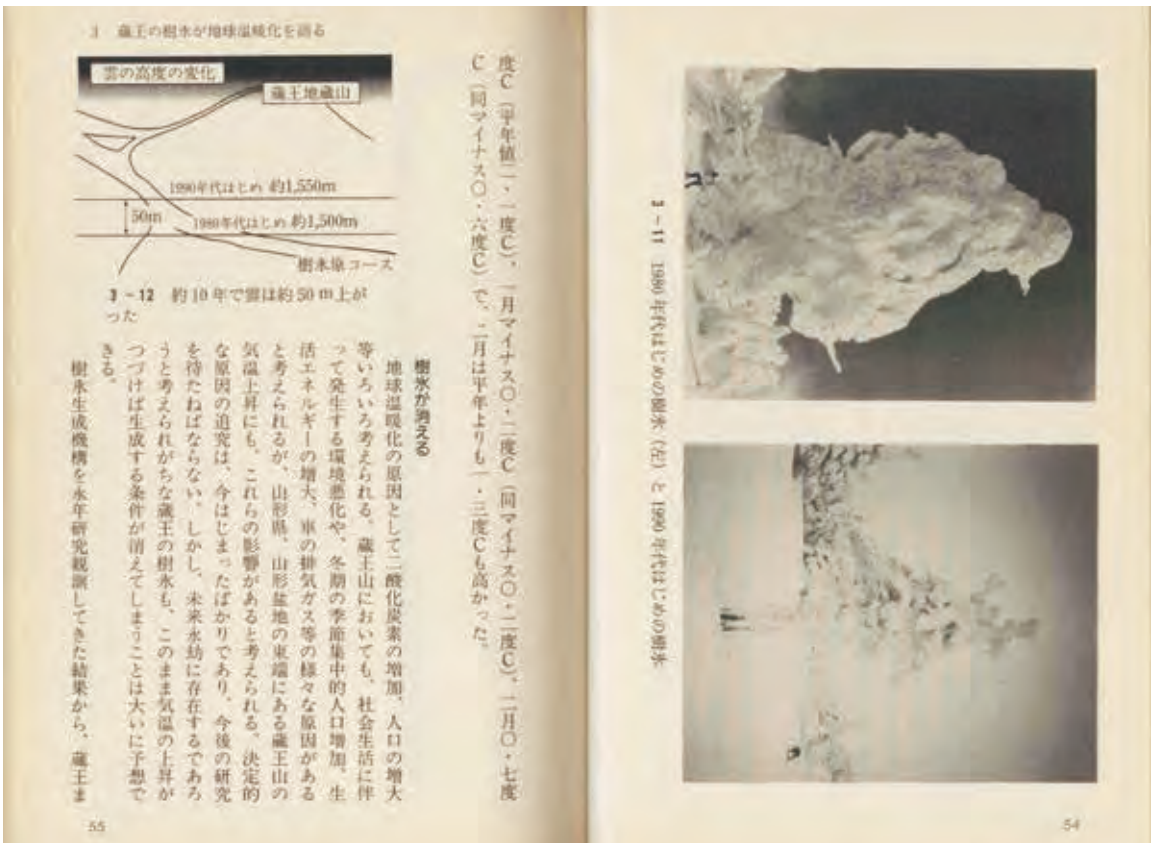
講談社のブルーバックス「検証・ヒトが招いた地球の危機（山形大学地球環境研究会編）」の表紙



蔵王の樹氷が温暖化を語る



蔵王の樹氷が温暖化を語る（地球は温暖化する）



蔵王の樹氷が温暖化を語る（樹氷が消える）

矢野先生による蔵王の樹氷観測は1996年まで行われていました。矢野先生が停年された1997年か

らは、日本地下水開発（株）の沼沢喜一さん・山谷睦さんらに引き継がれて現在に至っています。

\*積雪・断面観測93年から95年まで





矢野先生による蔵王の樹氷観測は1996年まで行われていました。矢野先生が停年された1997年か

らは、日本地下水開発（株）の沼沢喜一さん・山谷睦さんらに引き継がれて現在に至っています。

\*積雪・断面観測93年から95年まで



矢野先生による蔵王の樹氷観測は1996年まで行われていました。矢野先生が停年された1997年か

らは、日本地下水開発（株）の沼沢喜一さん・山谷睦さんらに引き継がれて現在に至っています。

\*積雪・断面観測93年から95年まで





\* 積雪・断面観測 1994年 3月9日





\*ライトアップ 1999年2月1日







